

2014年度（平成26年度）幼稚園評価自己評価表

最終更新日 2015年（平成27年）3月31日

園番13

福山市立高島幼稚園

1 幼稚園教育目標

豊かな心を持ち、生き生きと活動できる子

2 目指す自園の幼稚園像（ビジョン）

- ・た→楽しく笑顔あふれる幼稚園
- ・か→輝く瞳あふれる幼稚園
- ・し→信じ合える友だちのいる幼稚園
- ・ま→まごころで保育する幼稚園

上記の幼稚園像を合いことばに、「生きる力」の基礎を育成する。

3 目指す幼児像

- ・やさしい子（人の気持ちがわかり、友だちと助け合おうとする子）
- ・がんばる子（元気で、ねばり強く最後までやり抜く子）
- ・よく遊ぶ子（遊びをとおしていろいろなことを学び、考える子）

4 自園の現状分析（地域環境・園の環境・幼児観・保護者、地域との連携協力・現状課題など）

- ・福山市の南部に位置し、海や山がすぐ側という自然に恵まれた環境のなかにある。地域では、子ども神楽や田尻音頭など伝統芸能の伝承にも力を注いでおり、“田尻の子ども”としてやさしく見守ってくださっている。
- ・5歳児7人、4歳児11人という少人数のなかで教師による細やかな援助やのびのびと遊べる保育環境を求め、5歳児の5人、4歳児の4人は、学区外から通園している。
- ・保護者の願いは、「あいさつができるようになってほしい」「自然や友だちとふれあいながら、興味をもったことにチャレンジし、考えたり、創造したりしてのびのびと遊んでほしい」「安心して自分の思いを出し、思いやりのある優しい子に育ててほしい」という願いをもっている。子どもは、愛情深く育てられ、人への信頼感が育っている。しかし、関わり方が過保護や過干渉になっていると感じる場面がある。
- ・子どもたちは、幼稚園の内外の環境に興味をもち、かかわって遊ぶことを楽しんでいる。自然に恵まれた地域環境であるが、子どもたちが自然とふれ合って遊ぶ体験は少ない。また、就寝時刻やトイレ、食事の仕方など基本的生活習慣が身につけていない実態がみられる。また、家庭では、保護者に自分の要求や気持ちを伝えることができるが、幼稚園では、自分の思いや要求を教師や友だちに伝えることができにくい子どももいる。
そこで園生活において、さまざまな人たちとかかわりながら、豊かな遊びや生活体験を重ね、思いを共有する体験を通して心豊かに表現する子どもを育てていく。

5 今年度の重点目標と設定理由（ビジョン実現のために）

重点目標	設定理由
・自然とかかわり、心はずむ体験をとおしていっぱい表現する子どもを育てる。	・四季折々の自然とかかわり、心はずむ体験をとおして、いきいきと表現する子どもを育てることができる。また、お互いの表現を認め合うことで、自己肯定感を高め、感じたことや考えたことをことばで表現し、教師や友だちなどに伝える喜びを味わうことができると考える。

	3年間の目標	1年間の目標	具体的な方策	評価項目	評価	評価結果	
				指標		○=反省や課題 ◎改善のための方策	
生きる力の基礎	・自然に親しみ、感じたことを表現する楽しさを味わう。	・生命の大切さや不思議さに気づく。	・飼育・栽培活動を継続的に行う。	・当該年齢の望む姿の幼児(80%)	B	<p>飼育栽培に興味をもった園児87%</p> <p>○日々の飼育体験を通して、不思議に思ったり、驚いたり、興味をもったことについて、教師が丁寧に受けとめ友だちと考えたり学んだりしていった。そのことを通して、飼育栽培物の立場になって考えようとしたり、相手の気持ちを考えたりする姿が増えてきた。</p> <p>○栽培した野菜をどうするか自分たちで考え、干してプレゼントにしたり、調理法も考え4歳児と一緒に食べたりしたことで、食への興味がより深くなり、園でも家庭でも食べ物についての話題が増えた。</p> <p>○植えた直後は、子どもの興味も高く、教師も声かけが多かったが、子どもの興味や関心を高める支援を継続的に行うことができにくかった。また、教師主体で活動を進めている場面が多かったようで、子どもが自ら考えたり行動したりする場面が少なかった。</p> <p>◎飼育栽培活動の年間計画を立て、子どもの姿とねらいを明確にしてつながりをもった取り組みになるようにする。◎子どもが、主体的にかかわり試行錯誤したり、考えたり、話したりする機会を増やし、丁寧に受けとめたり、共感したり、子ども同士が伝え合えるようにしていく。</p>	
	・人の話が聞け、自分の思いを自分のことばで伝える楽しさをつける。	・先生や友だちのことばや話に興味や関心を持ち、親しみをもち、親しみをもち、聞いて話したりする。	・友だちの前で感じたことや考えたことを話す場を週に1回以上設ける。	・当該年齢の望む姿の幼児(60%)		A	<p>人前で発表は望む姿の幼児68%思いや考えを話すは73%達成。</p> <p>○保護者から「帰宅後の子どもから聞く1日の話からは、日々がとても充実していることが感じられた。」「登園する楽しみを日々感じ、楽しかった出来事を父母へ伝えたいという気持ちも育ち、会話ができるようになった」「友だちのようすや自分が見たり感じたことを伝えられるようになってきた」「幼稚園で楽しかったことやうれしかったこと色々と教えてくれた」という声をいただいた。</p> <p>○驚きや感動が心に残ると、子どもは話したい気持ちがふくらみ、進んで発表する姿につながったと考える。クラスや合同保育などいろいろな場で発表する機会を設けたことで、その場に合わせた表現の仕方を学ぶことができた。</p> <p>◎驚きや発見、感動が生まれる環境設定や保育内容を工夫する。</p>
		・親しみをもち日常のあいさつをする。	・あいさつをする。 ・みんなの前で、簡単なことばで話をする。(自己紹介・当番のあいさつ・遊んだことなど)	・当該年齢の望む姿の幼児(85%)			A
教師の役割	・子どもの発達や学びの連続性を踏まえた教育内容を工夫する。	・幼児一人一人の発達の特性に応じた指導を行う。	・研究保育を2回以上行い、発達段階を踏まえた指導や幼児理解、教材研究などの研修を行う。	・事後研修で発言する教職員(100%)	C	<p>○研究保育は1回行い、職員の発言も100%は達成できなかった。</p> <p>○日々の保育については、相談したり、意見交流したりする場面が多く、連携や協力しながら保育を進めることができた。</p> <p>○園内研修の場面でも意見交流はできたが、課題に気づくのが遅れたり、具体的な改善策が見いだせず、あきらめてしまう場面もあった。</p> <p>○研究保育では、幼児理解、題材設定、教材研究はよかった。</p> <p>◎次年度は、年間計画で研究保育を行う日を決めておく。研究の視点を明確にし、基本学習と実践を行い、話し合いを深めるようにする。一人一人の幼児が主体的に活動し、クラス集団のなかで自己発揮しながらともに育ちあっていくための指導方法のバリエーションや仲間作りの筋道を学んでいく。</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感のもてる評価活動を積極的に仕組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの姿を細やかに伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> クラス便り・お便り帳・送迎時などで子どもの姿を家庭へ知らせる。また、子どもへもその都度丁寧に評価を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の園児へのかかわり方に肯定的評価 (75%) 	<p>A</p> <p>保護者の肯定的評価提出者100%</p> <p>○保護者から子どもの姿や保育内容などを丁寧に伝えていき、「クラスだよりが毎回楽しみだった」「わが子だけでなく、どの子も目的を達成するまで、時間をかけて見守ってくれていた」「基本的な生活習慣が安定してきた」</p> <p>「子どもだけでなく親もよく励ましてもらった」「最後まであきらめずに物事を続けるようになった」「見通しをもつ力。相手の気持ちを気遣う。自分なりの目標の立て方(あみもの・竹馬)野菜への興味などが育った」という声をいただいた。</p> <p>◎今後も、何を伝えたいのか、何に気付いて、一緒に考えてもらいたいのがはっきり伝わるようにわかりやすい書き方を工夫していく。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが身近な環境への好奇心や探究心をもち、意欲的に活動できる環境づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 園内外の動植物、自然物をいかし意欲的に遊べる環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期ごとに子どもの姿と意欲的に遊べる環境構成について職員間で共通理解し、実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然物とかかわりながら遊ぶ園児 (85%) 	<p>A</p> <p>動植物と触れ合いながら遊ぶ園児93%</p> <p>○「捕まえたバッタを持って帰ってきた時は驚いたが、エサの草を採りに行き、世話を親子で取り組めたのは楽しい経験だった」「入園当初のカエルの踊りから、運動会、発表会と同じカエルのテーマで取り組んでいたのがよかった」「うさぎの世話や海岸への散歩、畑作業、自分たちで拾ったどんぐりなどを使っでの制作など季節の移ろいを感じ、子どもの関心や楽しみととても合っていた」という声をいただいた。</p> <p>◎自然物教材として生かすできていなかった。年間計画を立て、どういう心情・意欲・態度を育てるのか明確にして、月案、週案のなかで環境や保育に具現化していく。</p> <p>◎驚きや発見、感動が生まれる環境設定や保育内容を工夫する。試行錯誤したり、考えたり、話したりする機会を増やし、丁寧に受けとめたり、共感したり、子ども同士が伝え合えるようにしていく。</p>
信頼される幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域との連携を深め、信頼される幼稚園づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 園情報を積極的に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育内容や未就園児の会などの情報を載せた幼稚園だよりを年間3回以上発行する。 	<ul style="list-style-type: none"> 園便りの内容を満足している保護者 (75%) (<p>A</p> <p>満足している保護者は100%</p> <p>○保護者から「園だより、行事予定は、連絡がとてもわかりやすかった」「どの行事や日常の保育のなかでも、きちんとしたテーマがあり、子どもたちの自主性を伸ばしてもらえ、子どもたちが達成感もち次へのステップアップをしていたのがとても良かった」という声をいただいた。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 未就園児の会を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健だよりや子育て情報などの啓発資料を作成する。 園行事や講演会などに参加できるように計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> 未就園児の会に満足している未就園児保護者 (75%) 未就園児の会への参加者を前年度より増加 (5%) 	<p>A</p> <p>高島ランドの参加者は13%増えた。園庭開放は5%減った。</p> <p>○園庭開放の日数を増やしたり、高島ランドの内容に興味をもってもらえるものに改善していった。未就園児の保護者から、リズムや制作、動物や園児とのふれあいなど多様な経験ができて喜ばれた。</p> <p>○未就園児の会でも、今年度から子育て情報として、流行性の病気やしつけなどの啓発資料を作成し、情報提供していった。</p> <p>○講演会も、今年度は未就園児が参加できる内容にしていったが、参加者が少なかった。</p> <p>○計画表を学期ごとにし、早めに掲示するようにした。</p> <p>◎次年度は、早めに計画を伝えるようにするとともに、参加しやすい内容にする。</p> <p>◎水呑学区に、未就園児の会の内容や計画を知っていただき参加者数を増やす。</p>